

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第1回総合部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	出産 子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てをしている女性だけでなく、高齢者、障がい者などにとっても、働くということは、単にお金を得るだけでなく、人と繋がるという効果もある</li> <li>・子育てのために家にこもっているのは、外界から遮断され、情報も入ってこない</li> <li>・そういった面からも考える必要がある</li> </ul>
2	出産 子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性にとって魅力的な大分県」とは、どういうものか</li> <li>・他県の女性からは大分をうらやましがられたりすることが増えた</li> <li>・他県の女性は大分のどこに魅力を感じているのか、外の声を聞くことも大事</li> <li>・実は魅力があるのに、地元の人がうまく発信できていないということもあるのでは</li> </ul>
3	出産 子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、「女性の生きづらさ」「出産と活躍が反比例」という声が上がってきたのは、ソフト面での取組がまだ必要ということではないか</li> <li>・身近な女性の動きと同時に、外からの声などもバランスよく見ていくことも必要</li> <li>・女性のことについては、正面から取り組まなければならない緊急なこと</li> </ul>
4	出産 子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間単位の有給など、女性にとって時間が作れるというのは大事</li> <li>・都市部と違い、田舎では職場と家が近く、短時間でも子育ての時間が作れる</li> </ul>
5	出産 子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率が上がっても、女性の数が増えないと出生数は増えない</li> <li>・大分から福岡へ、女性は1,000人出超</li> <li>・人が足りないという中小企業は75%であり、大分にも職はたくさんあるはずだが、なぜ福岡に行くのか</li> <li>・福岡に感じている魅力を大分に作ることで、女性の流出をとめるヒントになる</li> </ul>
6	出産 子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の子育てについては企業側にも問題がある</li> <li>・出産後の短時間就労は法的には3歳までだが、当社では小1まで認めている</li> <li>・これを3年生まで伸ばそうと社内では言っている</li> <li>・地域だけでなく、企業も制度的にバックアップすべきであり、そういう企業を増やし、働きやすい環境をつくっていくことが必要</li> </ul>
7	地域 共生社会 公共交通 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動走行車は欧米ではレベル3くらいでどんどん走っているが、大分を自動走行車の特区にするなど、先駆けて手を挙げていくということも、個性的なまちづくりの中では必要</li> </ul>
8	地域 共生社会 公共交通 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通を利用するのは自分で運転できない方(子ども、高齢者、障がい者等)</li> <li>・福祉現場では福祉施設等が、学校現場ではスクールバス等で送迎をしている</li> <li>・それらが発展していき、地域に住んでいる人がだれでも乗れる形、交通手段のバリアフリーとなるよう、交通事業者と一緒に協力し合い、縦割りをなくし、地域の実情に応じた新しい、地域共生型公共交通ネットワークを創り上げていけないか</li> </ul>
9	地域 共生社会 公共交通 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県は小規模集落が非常に多いが、地域によって実情、必要とされているものが違うため、個別の支援を考えていく必要がある</li> <li>・法規制の問題があるが、色々な可能性を重ねていくべき</li> <li>・旅客と貨物という組み合わせなどもあり、実情に合わせてアイデアを出していくことが大事</li> </ul>

No.	項目	発言要旨
10	地域 共生社会 公共交通 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会の中でNPOの存在は大事であり、NPOの活躍できる場をつくることも大事</li> <li>・NPOの人口あたりの数は年々低下</li> <li>・だんだん減っているということは、NPOが動きにくい中があるということ</li> <li>・行政と地域の間を取り持つNPOがニーズを拾いながら、公共交通のあり方も含め個別に対応することが必要ではないか、一律で何か、という考え方をやめるべき</li> </ul>
11	地域 共生社会 公共交通 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分の中でも、都市部と郡部ではだいぶ違う</li> <li>・都市部を見たときに、大分市でも市営公共交通機関はなく、将来、地域の足という役割を果たして欲しいといっても、民間でも採算が合わないのでは</li> <li>・一方、杉並区の「すぎ丸」のような、小回りのきく小型輸送の手法などは、都市部では成り立つのではないか</li> </ul>
12	地域 共生社会 公共交通 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロラド州ポートランドでは移住者が多い</li> <li>・街中には駐車場がなく、公共交通機関のみで移動</li> <li>・かなり議論はあるが、公共交通のあり方を含めたまちづくりを考えていく必要もあるのでは</li> <li>・県内でも、地域特性を踏まえた差別化した取組が必要ではないか</li> </ul>
13	地域 共生社会 公共交通 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この5年間でインバウンドはかなり増えており、これからも確実に増えていく</li> <li>・この中で公共交通は、住んでいる人と訪れる人がともに乗っていく仕組みであってもよいのではないか</li> <li>・地域特性はあるだろうが、訪れる人数も含んだ交通ネットワークも可能ではないか</li> </ul>
14	県土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災士の育成のあり方について、本当に住民が活かせる内容にしてほしい</li> <li>・計画だけでなく、どう避難するか、そこからの重要性</li> </ul>
15	県土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震が発生された場合、国道10号が遮断されてしまう</li> <li>・大分には関西汽船もあり、船舶を宿泊施設、病院施設として使用するなど、事前協定などを検討してもよいのでは</li> </ul>
16	県土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害に強いまちづくり」とあるが、実際に災害があった際に影響を受けるのは地域の方</li> <li>・道路が寸断され孤立、山林・農地崩壊など、復旧が難しく、費用がかかって効率の悪いところもあるが、そこはちゃんと押さえた議論をして欲しい</li> <li>・ちょっとした異常気象でも農業生産が非常に不安定になるが、その議論も入れていって欲しい</li> </ul>
17	県土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国への要望時において、エビデンスがあるかどうかで評価が違う</li> <li>・一つは防災と社会資本整備、もう一つは働き方改革と社会資本整備</li> <li>・航路と道路を結びつけることで働き方改革に繋がるという話に、国から非常に賛同を得た</li> <li>・社会資本整備には国の力も必要であり、その辺のことも考えることが必要</li> </ul>
18	県土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・減災対策としての山や田んぼの存在価値(生態系サービス)の視点が必要</li> <li>・対策を講じる際に、災害についての地元の伝承などの掘り起こし・反映も必要</li> </ul>
19	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターの確保と育成は大事</li> <li>・公立高校の先生は数年で異動するなど、地域の方と一緒に進められる体制でない</li> <li>・地域の方と先生を繋ぐコーディネーターが重要</li> </ul>

No.	項目	発言要旨
20	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分にも優れた企業は多い</li> <li>・大分の大学・高校を卒業した生徒を、地元優先で採用していただけるようにできないか</li> <li>・高齢者でも元気な方は多く、教職員の定年退職後、熱意のある方にはボランティアなどで小中学生の教育に協力していただければ</li> </ul>
21	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い女性が流出、特に福岡県への流出が多いが、なぜそうなるのか</li> <li>・大分県になかなか相応しい大学がないのかもしれない</li> <li>・特色のある学科を前面に押し出せば、出て行くかもしれないが、入っても来るという状況も考えられる</li> <li>・県内にそのような大学をつくっていく必要があるのではないか</li> </ul>
22	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の頃から「LOVE大分」、大分の良さを教育していく仕組みがまだまだ弱いと感じる</li> <li>・大分の良さ(食材、自然、温泉、歴史など)はたくさんあるが、それを知っている子ども達がほほえない、結果として出て行くことになっているのではないか</li> <li>・ふるさと教育、大分をもう一回見直そうという教育を義務教育の中で取り入れてはどうか</li> </ul>
23	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分の学生を採用しようとしているが、なかなか採用できない</li> <li>・不況な業界には優秀な学生は来てくれないという状況もある</li> </ul>
24	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に一次産業では本当に人が足りない</li> <li>・中山間地、少子高齢化の中で、産業として収益をきちんと上げるのはハードルが高い</li> <li>・新規就農や企業参入として入ってくる人はいるが、参入時の補助などの支援はあるが、ある程度経つとそれがなくなるため、そのまま農業農村で続けていけるか危惧することも</li> <li>・お金の面はともかく、生活環境など色々な面のフォローアップをお願いしたい</li> </ul>
25	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人雇用もしているが、国内での獲得競争が激しくなっていく</li> <li>・時給1,000円いかないと厳しいのではないかという状況</li> <li>・一方、日本人女性は子育て、地域行事等の社会的制約がなければ、まだまだ仕事に専念でき、収益を上げることができるのではないか</li> <li>・制度的な問題もあるが、今後はそういった施策等も必要ではないか</li> </ul>
26	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の頃からプログラミング経験のある子どもが少ない</li> <li>・IT化が進めば、プログラミングする人間と、プログラミングされたものにしたがって動く人間に変わっていく</li> <li>・子ども達には、プログラミングしていく側の人間になれるような教育をできたらよい</li> </ul>
27	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学はより専門的な学部が増えてきており、高校の中でも専門性のある教育をしていくべき</li> <li>・経理会計という商業も大事だが、ITの次代は特に、サービスを生む、作れるような人材を教育する商業高校の学科などがあったりするのもよいのでは</li> </ul>
28	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の大学進学率は全国的に見ると高くない</li> <li>・学生達の経済的な問題もあり、奨学金等の支援制度は色々あるが、実は学生にはあまり伝わっていない</li> <li>・地元進学、地元就職しやすい制度もあるが知られておらず、もしくは拡充が必要なのかも知れない</li> </ul>
29	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ分野としては、県内の大学は少し偏っており、高校の先生からは農学部、薬学部がないと言われ、県外に進学することも</li> <li>・農学部などを単校で作るのは難しい</li> <li>・すぐできる話ではないが、連合学部というのは国の制度でもできるようになりつつあり、可能性としてないのか、長期的に考える必要があるのではないか</li> </ul>

No.	項目	発言要旨
30	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では、資金的に潰れないようにする「亀井モロトリアム」や現在の低金利のような、チャレンジするよりも低付加価値でも生き残れるような施策をやってきたのではない</li> <li>・新陳代謝しないと生産性は上がっていかない</li> <li>・大分の赤字法人は7割を超えている</li> <li>・今からの時代、従来のビジネスモデルを続けていては、さらに企業は減り、人が減る</li> <li>・今後の中小企業対策は、単に資金繰りを支援するのではなく、チャレンジさせること</li> <li>・企業の核になる人材を補うこと、個性を出すような対策が必要</li> </ul>
31	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人材が集まるハブのようなものが都市中心部にあるとよい</li> <li>・異業種、老若男女が集まりコミュニケーションすれば、新しいものが生まれる</li> <li>・自社だけで新しいものを作るのは困難になっており、そのハブがあると面白い人間が集まってくるのではない</li> </ul>
32	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10万人以下の地域に新しい企業を起こしたら、その企業の法人税はゼロにするなどといった特区などをしてみたら、人材も集まるのではない</li> </ul>
33	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興にはITは絶対に外せない</li> <li>・地域の公共交通、自動運転の議論しても、それを使う人間のITリテラシーが低い</li> <li>・大分県は先に高齢化しており、自動運転の実現まで待てない状況</li> <li>・まず高齢者がスマホを持っているという環境をまずつくって、次にサービスを受けていく</li> <li>・そのようなステップバイステップを踏んでいくというような戦略的なITの活用をしていくべき</li> <li>・一つの会社、一つのサービスでは何も変えられないため、チーム大分みたいなものができればよい</li> </ul>
34	芸術文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術文化が大分の女性達にとって、生きづらさの解消や大分らしさとの出会いであったりといった可能性を一番持てる場所ではない</li> </ul>
35	人口減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の社会増減、地域ブランド力の実績が悪化している中、36年度の目標値は非常に意欲的な数値となっている</li> <li>・今までと同じ施策では、目標達成は困難では</li> <li>・施策を見直さなければ結果は出ないため、目標値のあり方、あるいは施策の効果を見極め、新しい施策とは何をやるべきか突き詰めていくべき</li> </ul>
36	人口減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然増減の死亡と出生、社会増減の転入・転出という4つの要素に分けて見ていかないと施策は間違っていくのではない</li> <li>・自然減は社会減よりはるかに大きい</li> </ul>
37	施策評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な施策もレーダーチャートにすると全てが平坦になる</li> <li>・問題に対して、ある施策が大きなウェイトを占めるのであれば、この施策を絶対成功させないと目的は達成しないというようなアプローチの仕方もあるのではない</li> </ul>